

## 評価意見

## 評価基準ごとの審査

## 評価の判断理由等

## 1 「政策の目標」の達成度

B 達成に向けて進展があった。

## 【参考指標 組2-1】各種研修の実施状況

(単位：コース、人)

	平成 20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
[財務総合政策研究所]					
コース数	53	54	54	59	57
受講者数	2,453	2,625	2,371	2,450	2,508
[税関研修所]					
コース数	49	49	51	50	49
受講者数	1,264	1,385	1,343	1,177	1,156
[税務大学校]					
コース数	41	41	41	39	39
受講者数	5,325	5,045	4,969	3,618	4,575

(出所) 財務総合政策研究所、税関研修所、税務大学校調

## 【参考指標 組2-2】幹部職員向けセミナーの実施状況

(単位：回、人)

	平成 20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
[財務総合政策研究所]					
コース数	7	7	12	10	9
受講者数	188	238	397	324	343

(出所) 財務総合政策研究所調

## 2 事務運営のプロセスの適切性、有効性、効率性

適切であった。

有効であった。

おおむね効率的であった。

(事務運営プロセスに係る評価の理由等)

(適切性)

研修の実施については、職場の研修ニーズや職員の要望等を踏まえ、研修の時期の設定から研修教科、研修時間、研修講師等多岐にわたり研修内容の見直しを行ったうえで実施している。

(有効性)

研修講座については、所管行政を取り巻く環境の変化に応じ、新設、再編が行われるなど有効な研修が行われている。

(効率性)

新たな行政需要に対応した研修を引き続き着実に実施するため、限られた施設、期間をもって効率的な研修の実施に努めている。

## 3 結果の分析的的確性

的確に行われている。

(結果の分析的的確性に係る評価の理由等)

各種会議や調査を通じた研修ニーズの把握やアンケート調査等による受講者の意見等の把握を行う事により、次年度からの研修の内容の見直しや研修講座の新設、再編等に生かされている。

<p><b>4 当該政策や、政策評価システムの運用の改善への提言</b> 政策について有益な提言がなされている。</p>	<p>(今後の提言等) (政策の改善) 今後とも、効果的・効率的な研修の実施に向けて、所管行政を取り巻く環境の変化に対応した研修内容の見直しや研修講座の新設、再編を引き続き適切に行うことが課題であり、行政需要に対応した研修を着実に実施することを通じて、高い能力と見識を有する人材の育成・確保に努めることとしている。</p>
<p>講評 (平成 25 年 6 月 「財務省の政策評価の在り方に関する懇談会」)</p>	